

2024年9月2日

国際交流講演会開催報告書

国際日本学部教授 山脇啓造

日時：2024年7月5日（金）16:00-17:30

会場：中野キャンパス 602 研究セミナー室

講師：オ・ジョンウン漢城大学准教授

テーマ：韓国における移民統合政策の課題と機会

(Migrant Integration Policy: Challenges and Opportunities for the ROK)

使用言語：英語（日本語逐次通訳）

参加者数：15名



2023年の合計特殊出生率が0.72となり、今後「移民国家」へシフトするのかが注目される韓国では、すでに在韓外国人処遇基本法と多文化家族支援法という法律を制定し、社会統合プログラムも運営して、統合政策を推進する体制を整えつつある。本講演会では、オ講師に移民統合政策指数においてアジアで最高の評価を得ている韓国の移民統合政策の現状と課題について論じていただいた。

講義は英語で行われ、スライド一枚ごとに筆者が日本語で要約を行った。オ講師は、まず、韓国における外国人受け入れの統計から見たトレンドと移民統合政策の歴史的推移を論じた。次に、韓国の統合政策の柱と言える社会統合プログラムの概要を紹介した。同プログラムは外国人住民が韓国社会に適応するため、2009年に導入され、「韓国語と韓国文化」と「韓国社会理解」の二つの科目からなる。前者が415時間、後者が100時間で合計すると515時間のプログラムとなっている。

講義の最後に、オ准教授は同プログラムについて今後の課題を三点指摘した。第一に、受講を任意としている社会統合プログラムの受講を義務化すべきかどうかである。第二に、無料で受講が可能な社会統合プログラムを有料にすべきかどうかである。第三に、社会統合プログラムの韓国社会理解を担当する講師の養成をより厳格にするかどうかである。

日本と韓国は共に少子高齢化と人口減少という深刻な課題に取り組む中で、外国人材の受入れ、そしてそうした人材の定住化に舵を切りつつある。近年、日本のメディアが韓国の移民政策を取り上げることが増えているが、両国において移民政策の重要性が増しており、韓国の取り組みは日本にとって参考になると思われる。